

みなさん明けましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。みなさんのお正月はいかがでしたか？僕は、従業員の獣医師が11月末にアキレス腱を切ってしまったため、年末もお正月もなくずっと2人分の仕事をこなしていました。あーあ、ゆっくり温泉にでもつかりたいよ。愚痴はともかく今年もがんばりましょうねっ。

導入期の飼養管理

さて、やっと今月から肥育牛の飼養管理のお話しに入れますね。今月は導入期の飼養管理についてお話しします。この時期は、なんと言っても第一胃の最大発達期の末期です。せいっぱい第一胃を発達させてあげないとはいけません。なにせ、この時期を“腹作り期“と呼ぶこともあるくらいですからね。牛さんは第一胃でロースなどの筋肉も、サシの脂肪も作り出すのでした。覚えていない人は前の文章を読み直してみてください。とても大切なところですからね。

さて一口に腹作り期といっても、大きく二つに分けて考えなくちゃいけないと、僕は考えています。まず、第一胃の働きの主役である微生物を育てるため、また1分間に1回以上の第一胃運動をこなせる強い胃壁を作るため、さらに、たくさんの飼料を食い込める大きな胃袋を作るために、粗飼料をしっかり食い込ませる時期、これを僕は粗飼料による腹作り期と呼んでいます。それに続いて、徐々に濃厚飼料を増飼していった、肥育牛のエサの本命である濃厚飼料をしっかり食い込める胃袋にしてやる時期、これが濃厚飼料による腹作り期です。第一胃は、繊維やデンプンからサシやエネルギーの素になる脂肪酸を作りますが、この脂肪酸(酢酸、プロピオン酸、酪酸の3種で、まとめてVFAといいます)を吸収するのも第一胃でした。しっかり吸収させるためにも、第一胃の粘膜絨毛を大きく発達させておかなければなりません、この絨毛を発達させるのも繊維とVFA、とくにデンプンから作られるプロピオン酸の働きです。ですから粗飼料による腹作りをすませたら、つぎはデンプン質を多く含む濃厚飼料による腹作りにかかるわけですね。

まずは粗飼料による腹作りのお話しをしましょう。導入牛はおおむね9ヶ月齢前後です。ぜめて10ヶ月齢いっばいは、粗飼料を中心とした飼養管理で第一胃の基本機能をしっかり作ってあげないとはいけません。つまり導入後最低1ヶ月間は、粗飼料による腹作り期として管理するべきだと僕は考えています。その後2ヶ月間、つまり12ヶ月齢くらいまでは徐々に濃厚飼料を増やしてやって肥育中期に向かって最大の食い込みができるようにしてあげなくてははいけません。もちろんしっかり腹のできた筋肉質の子牛だけを導入して、導入後すぐに濃厚飼料を食い込ませる管理をなさっている方もいます。しかしそれは本当に牛を見極める力のある名人の技ですから、一般の人が安易にまねをすると、中期には食い込みが落ちてガタガタの牛になる危険が大きいと思いま



す。みなさんは基本的に忠実に、しっかり儲ける管理をしましょう。あ、すぐに横道にそれますね。とにかく導入時期は、良質の粗飼料を多給(去勢牛は 5kg、雌では 4kg 程度を目標にしましょう)してあげます。ここで、“良質の”というところがポイントです。質の悪い粗飼料では食べ込んでくれませんし、もし食べ込んでくれて腹が起きても(腹囲が大きくなること)バラが薄いことが多いのです。質の悪い粗飼料ではタンパクやカロリーも低いですからね。

僕は以前は導入期の粗飼料に、ヘイキューブをお勧めすることが多かったのですが、最近(というか、かなり前から)硝酸態窒素が高い物なども多く、品質が安定しないので、現在はチモシーを中心として組み立てることが多いです。ただし、チモシーでも硝酸態窒素の濃度が 2,000ppm を超えるものもありますから、チモシーというだけで過信しないようにしてください。一番のバロメーターは牛が食べ込むかどうか、です。もしもみなさんが与えている粗飼料の食べ込みが悪いときは、まず硝酸態窒素の濃度を測定してみてください。なれてくると、自分で粗飼料をかじってみても、ある程度は硝酸態窒素の濃度が解るようになります。硝酸態窒素が高い草は、かじると渋みと苦みが混じったような何とも言えないえぐい味がします。

導入1ヶ月間は粗飼料のみ、という農場もありますが、僕は繊維をたくさん取らせてあげたいので一般フスマを給与するようにしています。これも1日3kg 程度です。もちろん牛の大きさに合わせて量は調節しますけどね。また大型の素牛(たとえば平茂勝や照美など)の場合には、増体のために必要なタンパク質を補うために大豆粕を250g~300g程度与えます。ただし、大豆粕は与えすぎると尿石症が発生しやすくなるので注意してください。とくに牛さんの飲み水のpH(酸性アルカリ性の単位)が高い、つまりアルカリ性の水を与えている場合や、飲水量が少ない場合(冬場に凍結したり、ウォーターカップの流量が少ないときです)には尿石症の発生危険率が上がります。陰毛の状態に注意して、白色の粉や石が付着していたらカウストーンを飲ませたり獣医さんに相談しましょう。そういう場合には大豆粕の量を減らしたりトウモロコシの圧片を追加して尿を酸性化させる工夫をします。こちらも具体的な量は症状や飲み水などとの関係がありますからそれぞれ違います。実際に牛を見ながら獣医さんと相談してみてください。もしも必要でしたら斉藤さんを通して相談に乗ります。

これらの腹作りをスムーズに進めるためにも、導入時には風邪などの感染症に気をつけましょう。それから群れにいじめっ子がいる場合には、軍隊飯方式も効果があります。エサを与えてから10分程度ですべての飼料を取り除いてしまいます。最初の1週間くらいでいいです。こうすると、強い牛も必死で短時間で食べてしまわないと食べっぱぐれるので、弱いものイジメをする余裕がありません。いじめられないので弱い牛も一緒に食べられるのです。どうしても強い牛を怖がってエサ箱に顔を出せないようなら、



飼槽の真ん中に1本縦のしきりを入れてあげましょう。そうすれば群れの牛がそろって食べられるようになります。

あ、忘れずに言っておきますが、粗飼料もフスマも最初は 1kg 程度からならしてあげましょうね。牛の管理では、この「徐々に」というのがキーワードですよ。

